



「ロータリー財団をわかり易くクラブに伝えるために」
～財団への支援は“クラブの活性化” & “会員増強”に繋がる～

第1地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 梶原 等（千葉 RC）

11月はロータリー財団月間です。

ロータリーのリーダーの皆様は、各ポジションでロータリー財団の役割をどの様に伝えますか。今年度ロータリー財団管理委員長であるマーク・ダニエル・マローニー氏は以下の様に例えました。国際ロータリーを一つの愛車(Car)に例えロータリー財団はその愛車のエンジンであると。

そしてエンジンを動かす為には燃料(ガソリン)が必要です。その燃料は私達ロータリアン一人一人の支援(寄付)であるとメッセージを発信されております。

私達世界中のロータリー会員が様々な分野で活動をするときロータリーという“車”が世界中を駆け回る事になります。

この愛車を Rotary・Car とするならばその車は広報活動の役割を持ち、ロータリーのブランド力を広げる為に世界の平和の為に走りまわります。

ロータリーが目指す究極の目的は「世界の平和」です。

その役割である活動を担うのがロータリー財団でもあります。

ロータリー財団は 7 つの重点分野である「平和構築と紛争予防・疾病予防と治療・水と衛生・母子の健康・基本的教育と識字率の向上・地域社会の経済発展・環境」この 7 つをベースに各種活動プログラムの支援をし、活動プログラムのリソースの提供、活動資金であるグローバル補助金や地区補助金等、各種補助金活用の促進、財団に関するセミナー等を提供しております。

これ等のリソースは活用することにより自動的に各ロータリークラブの活性化へと繋がっていきます。そして世界中一人一人のロータリー会員が超私の奉仕という根本精神のもとロータリー財団を理解し、財団プログラムを展開した上で財団へ寄付することによりクラブへの帰属意識が高まります。

更には各クラブを中心にエンゲージメントが生まれ会員の維持・増強へと繋がる事によりロータリーの目的である世界の平和に向かう事ができるものと感じます。

又、新たな取り組みとして、年次基金-シェアへ支援された方々への“感謝の意”を伝えるために今年度から地区財団委員会が中心となり、感謝の手紙である“Thank You レター”を届ける取り組みをスタートさせています。これは3年前の年次基金-シェアが、具体的に自分たちの地区でどの様なプロジェクトへ活用され、成果を生んでいるかといった事を“Thank You レター”に含め、年次基金とシェアシステムの仕組みを理解して頂き、継続的な支援につなげて頂くという取り組みです。(2024-25 年度パイロット企画 3Year Thank You キャンペーン)

[本キャンペーンに関するお問い合わせ先:財団室 寄付推進コーディネーター\(AGO\) 近藤まで](#)

この11月、ロータリー財団月間に「ロータリー財団の役割と理解」を深めて参りましょう。





「アクションプランの推進」と「3年間の目標」について(その2)

第2地域 行動計画推進リーダー 桑澤 一郎 (茅野 RC)

前回は述べましたが、アーチック国際ロータリー会長は、会長イニシアティブの一つに「クラブにおけるアクションプランの推進」を掲げており、新たに各地域に「行動計画推進リーダー(アクションプランチャンピオン)」なる役を設け、地区やクラブへのアクションプランの浸透を推し進めています。

日本を包含する1,2,3地域では、既に各地区の「地区行動計画推進リーダー」34名が選任され、オンラインセミナーを開催するなど、順調に滑り出しています。さらに各地区のリーダーには「クラブ行動計画推進リーダー」の選任をお願いし、概ね7割くらいのクラブが選任または選任の準備をおこなっているようです。まずは態勢を整え、同時に各リーダーの知識を高め、年度内にクラブメンバーレベルへの浸透を目標としています。



行動計画は、いわば「ロータリー活動の指針」ですので、会員一人一人が、「4つの優先事項」に沿って自らの活動、行動ができていくかを常に意識できるようになることが目標です。ロータリーが社会に合わせて変化していくこと、より大きな影響力とメンバー同士の絆を増大させるための戦略です。

先日開催された2600地区のクラブ会長エレクトのセミナーでは、「クラブ会長テーマや事業はどうすれば良いか?」といった質問がありました。国際ロータリーは単年度目標から複数年目標にシフトしています。RI会長の年度テーマを廃止したことがその象徴的な現れでもあります。クラブ会長の単年テーマや単年事業はある意味その方向と合致しませんので、できれば会長ノミネーやデジグネートなどと共にクラブ戦略計画委員会を設置し、3年間の継続テーマや事業の構築をするのがよいのですが、急な変化に対応が難しいクラブは、徐々に進める必要もありますし、クラブ戦略計画としてあえて単年度事業を残す、という判断もあると思います。

一方で、クラブは「ロータリーの行動計画(指針)の推進」と「3-year rolling goals」の2つの方針に沿った新しい運営方法に変化していくことで、クラブの近代化、時代との整合へと導かれることも確かです。

いずれにしても大切なことは、この国際ロータリーによって示された方針の目的は、あくまでクラブのためのサポート、アドバイスであるということを理解し、クラブ運営を見直し、変化していくきっかけとして捉え、クラブの意思として自ら行動していくということにあります。

より意義あるつながりを育み、奉仕を通じてより持続可能な変化をもたらすためにロータリーを導くのが、私たちの戦略計画である「ロータリー行動計画」です。この行動計画の四つの優先事項を指針とすることで、より健全なクラブをつくり、すべての人が積極的に参加できる体験を提供し、行動を通じて持続的な変化を生むために人びとを結びつけるという国際ロータリーとロータリー財団のビジョンを実行することとなります。





第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 庄司 尚史 (境港 RC)

コーディネーターニュース 10月号でも EPNC の柳生好春さんが述べておられたパレスチナ自治区ガザでのポリオワクチン接種のニュースは、世界で大きく報道されました。毎日のように激しい戦闘が続くガザ地区で 25 年ぶりにポリオ患者が発見され、ワクチン投与のために一時的に戦闘の休止が実行されたという報道は、ポリオ根絶を最優先テーマとしている我々ロータリアンにとって驚きのニュースでした。

WHO によると、9月1日～12日 で 56 万人近くに接種できたようです。第2弾として 10 月半ばに残り数万人に接種の計画があるとのことですがおおむね目標が達成できたそうです。ポリオがいかに人類共通の脅威であるか認識を新たにしました。ポリオワクチン投与がガザ地区での停戦に結びつくことを期待したいものです。



この報道でマスメディアの力を印象付けられました。マスメディアに取り上げられるということは「お墨付き」効果があるといわれています。ポリオワクチン接種の必要性が全世界に「お墨付き」を与えられたと言っていいでしょう。

ロータリーとしても「お墨付き」効果を一段と強める必要があるように思います。クラブにおかれてはマスコミとの付き合いをどのようにされていますか？ 年に一度は懇談の機会を持っていらっしゃいますか？ 例会にお呼びされていますか？ ロータリー会員になっていただくとうれしいですね。地区、グループなど広域のエリアでマスコミを活用されていますか？ マスコミの皆さんにロータリーの活動を大いに理解していただきましょう。